

# 婦 人 科



診療科動画



診療科HP

## 1. スタッフ



診療科長（教授）近藤 英治  
教授（保健学科）1名、  
准教授1名、講師2名、  
診療講師1名、  
助教4名、特任助教1名  
診療助手2名、医員14名  
非常勤医師2名

## 2. 診療科の特徴、診療内容

婦人科臓器（子宮頸部、子宮体部、卵巣、卵管、腹膜、胎盤、外陰、膣）の腫瘍性疾患、不妊症・不育症・生殖内分泌疾患、婦人科領域の感染症、更年期、老年期について、同じく女性を診療する部門である周産期診療と密接に協力しつつ、女性に対する全人的な診療を行っている。外来は、日本産科婦人科学会専門医による診療を基本とし、超音波断層法装置、膣拡大鏡（コルポスコピー）や子宮鏡による検査、子宮頸部異形成に対するレーザー装置を用いた治療等を行っている。また、近年保険収載されたがんゲノム医療については、熊本県内で唯一のがんゲノム医療連携病院として、中核拠点病院である岡山大学でのエキスパートパネルにて治療方針を決定している。それに伴い、遺伝性疾患が疑われる症例については、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医（2名）を中心として遺伝カウンセリング体制を整え、遺伝性卵巣癌乳癌症候群やリンチ症候群などの遺伝性疾患への対応も行っている。

入院診療では、中心となる婦人科悪性腫瘍に対して、手術、化学療法、放射線療法、免疫療法、化学放射線療法を駆使し、他科の協力を得て集学的に治療を行っている。また、2021年からは腹腔鏡手術、2022年からはロボット支援手術を積極的に導入し、悪性腫瘍症例に対しても低侵襲手術の導入を開始している。

若年者においては将来妊娠が可能であるように妊孕性の温存を考慮した治療を行い、妊娠に合併した婦人科疾患に関しては、周産期分野のスタッフと密接に連携して診療にあたっている。2016年には生殖医療・がん連携センターを開設し、AYA世代で、がんに対する治療により妊孕機能を喪失する症例を治療前に把握し、適切な対応が行われる環境整備（がん・生殖医療提供体制の拡充と整備）を行っている。

## 3. 診療体制

### 1) 外来診療体制

新来・再来の診察日は月・水・金で、腫瘍外来、不妊症(ART)外来を中心として、思春期外来、女性

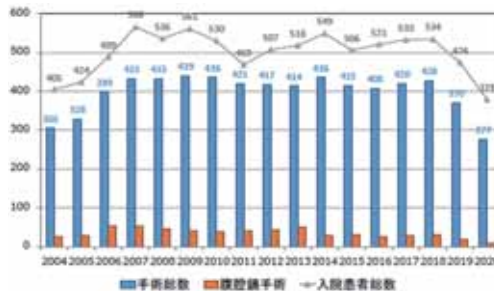
医師担当外来の専門外来を設けている。不妊症(ART)外来は月～金の毎日行っている。外来化学療法も行っている。

### 2) 病棟診療体制

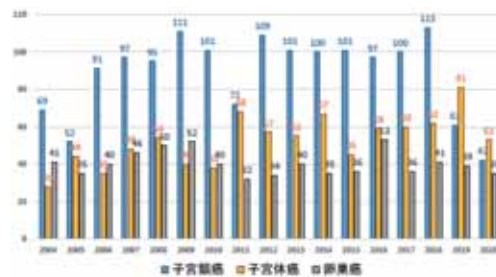
毎週月曜日午後には病棟回診と術前カンファレンスで十分な討論を行い手術に臨んでいる。予定手術を火曜・木曜日の午前・午後、金曜の午後に行っている。手術は教授以下経験豊富な医師が執刀するが、若手医師への指導も積極的に行い、研修医については指導医が1対1で指導を行っている。

## 4. 診療実績

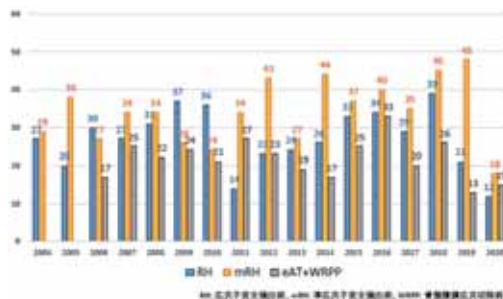
### 1) 婦人科病棟の手術件数および入院患者数の年次推移



### 2) 子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌（悪性/境界悪性）症例の年次推移



### 3) RH(広汎子宮全摘出術)、mRH(準広汎子宮全摘出術)、卵巣癌根治術(付属器切除+子宮全摘出術+骨盤腹膜切除術)施行症例の年次推移



## 5. 高度先進的な医療の取組

### 先進医療に向けた研究

卵巣癌の発生母地である卵巣表層上皮に関する研究は、卵巣癌に対する先進的治療の開発に不可欠である。我々は染色体の安定した不死化ヒト卵巣表層細胞の cell line を樹立し、この細胞株を用いた卵巣癌発生のメカニズムに関する研究や卵巣癌幹細胞の研究を行っている。これらの研究からは卵巣がん発生の予防や予知といった先進的な治療に結びつくことが予想される。また進行例で発見されることが多い卵巣癌の進展には腹腔マクロファージ、特にM2マクロファージが関与しており、これに由来するサイトカインなどをはじめとする生理活性物質の役割が明らかにすることによって、卵巣癌に対する先進的治療の糸口になると考えられる。現在、科研費を得て行っている下記の研究については婦人科がん治療に関する先進的医療に向けた基礎的研究である。

## 6. 臨床試験・治験の取り組み

### 1) 科研費による研究

- ① 近藤英治 基盤研究 (B) 胎盤形成不全に対する先制医療開発のための基盤研究
- ② 大場 隆 基盤研究 (C) ヒト原発性性腺機能不全の原因探索

## 7. 地域医療への貢献

### 1) 医師会や地方自治体の公的委員

令和2年度に務めた熊本県に係わる主な学会・委員会は以下の通りであった。熊本産科婦人科学会、熊本県産科婦人科医会、熊本県医師会母体保護法指定医師審査委員会、熊本県がん検診従事者（機関）認定協議会/子宮がん部、熊本県不妊対策事業検討会、熊本県医療対策協議会

### 2) セミナーや講演会の開催

毎年3月に日本産科婦人科学会公開講座を開催して、一般市民への婦人科疾患への理解、疾病の予防、健診の重要性などの啓蒙活動を行っている。

## 8. 医療人教育への取り組み

### 1) 卒後臨床教育の取り組み

令和4年度は初期研修1・2年目研修医の産婦人科における1～3ヶ月間の研修に対しては産婦人科専門医の資格を取得した医師を指導医として1対1の対応を基本として、様々な産婦人科疾患に対する理解を深めるため偏りのない症例を経験させた。

### 2) 専門医取得のための支援

産婦人科専門医は卒後5年の臨床経験を経て受験資格を有する産婦人科医必須の専門医資格であり、当院はその指導施設に指定されている。

### 3) 認定施設の実績

日本産科婦人科学会専門医制度研修指導指定施設の他に日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設、日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設、日本周産期・新生児医学会周産期母体・胎児専門医基幹研修施設、日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設の認定を受け、専門医の認定に向けて修練を行っている。

## 9. 研究活動

- ① 子宮頸癌：AYA世代で増加傾向にある子宮頸癌における臨床研究を行った。
- ② 子宮体癌：POLE変異に伴う子宮内膜癌の臨床病理学的検討を行った。
- ③ 卵巣癌：i) 卵巣癌における大網転移の臨床的意義について臨床研究を行った。ii) in vitroモデルを用いた発癌機構に関する基礎研究を行った。
- ④ 絨毛性疾患：i) 熊本県における絨毛性疾患の地域登録を1974年から開始し2022年も継続した。